

## 令和6年度 シャープシューティングの体制による計画捕獲の実施について（案）

九州地方環境事務所

## 1. 目的

九州地方環境事務所、九州森林管理局、鹿児島県、屋久島町共同で「屋久島地域ヤクシカ管理計画」策定しており、本計画では、ヤクシカの生息状況や捕獲場所に応じて捕獲方法を選択し教育されたシカを発生させないこと、保護地域等内では有害捕獲でなく計画捕獲※により捕獲を行うこと等を規定している。

ヤクシカの捕獲手法の一つとしてシャープシューティング体制による捕獲を検討し、H28年度の現地検討会、H29～R1年度の3年間にかけて、シャープシューティング体制による試験捕獲を実施した。その結果、関係機関、捕獲従事者と一体となった体制を基に、行政主導による地域自立型野生動物管理体制を構築し、安全管理を含む計画・準備（諸手続・周知等）・捕獲実施・評価・改善のサイクルを基に、R2年度より計画捕獲を行っている。

今年度は、過年度に引き続き、これまでに構築した「行政主導による地域自立型」のシャープシューティング体制を用いて、「車両が使用できない地域での誘引狙撃等捕獲手法の構築」を目的として、待ち伏せ型の誘引狙撃の実施を行う。

## 2. 実施スケジュール

実施スケジュールは、以下を予定。

|     |        |                             |
|-----|--------|-----------------------------|
| R6年 | 6月     | 林道下見、生息状況の確認                |
|     | 7月     | ヤクシカWG（事前共有及び意見交換）          |
|     | 7～9月   | 有識者等現地確認・諸手続・関係者等への周知・捕獲準備等 |
|     | 11～12月 | 給餌・捕獲実施                     |
| R7年 | 1～2月   | ヤクシカWG（事後共有及び意見交換）          |

## 3. 実施場所候補

以下の林道を候補として、捕獲メンバー及びアドバイザー等と協議し、決定する（図1～図2）。

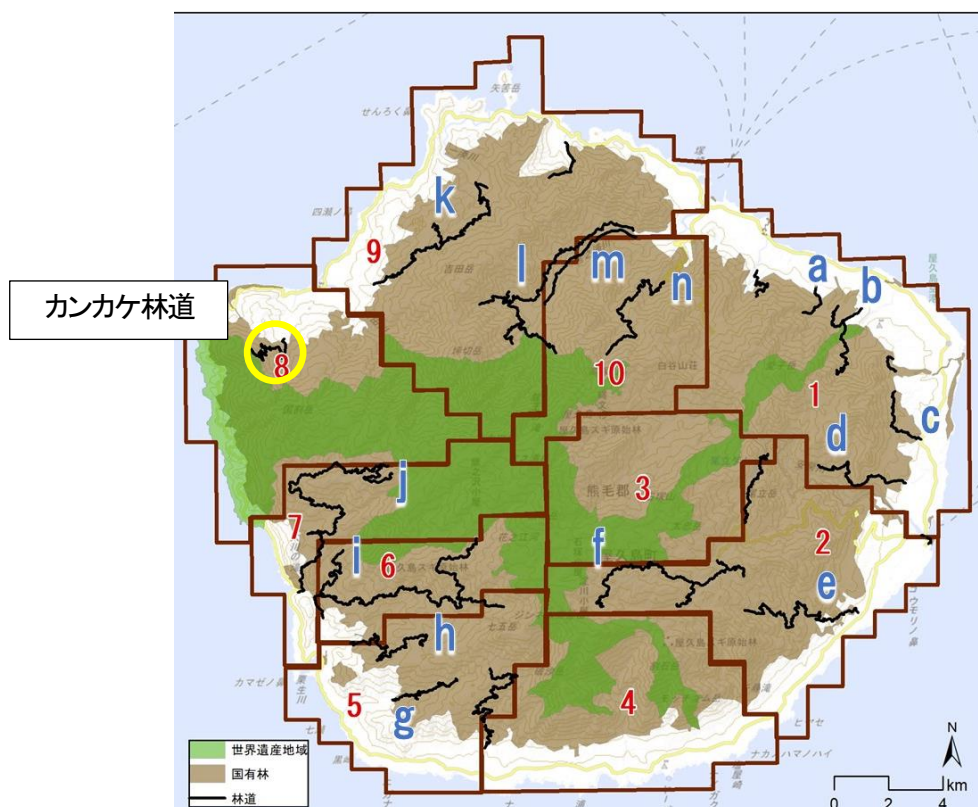


図1 実施場所候補

## カンカケ林道

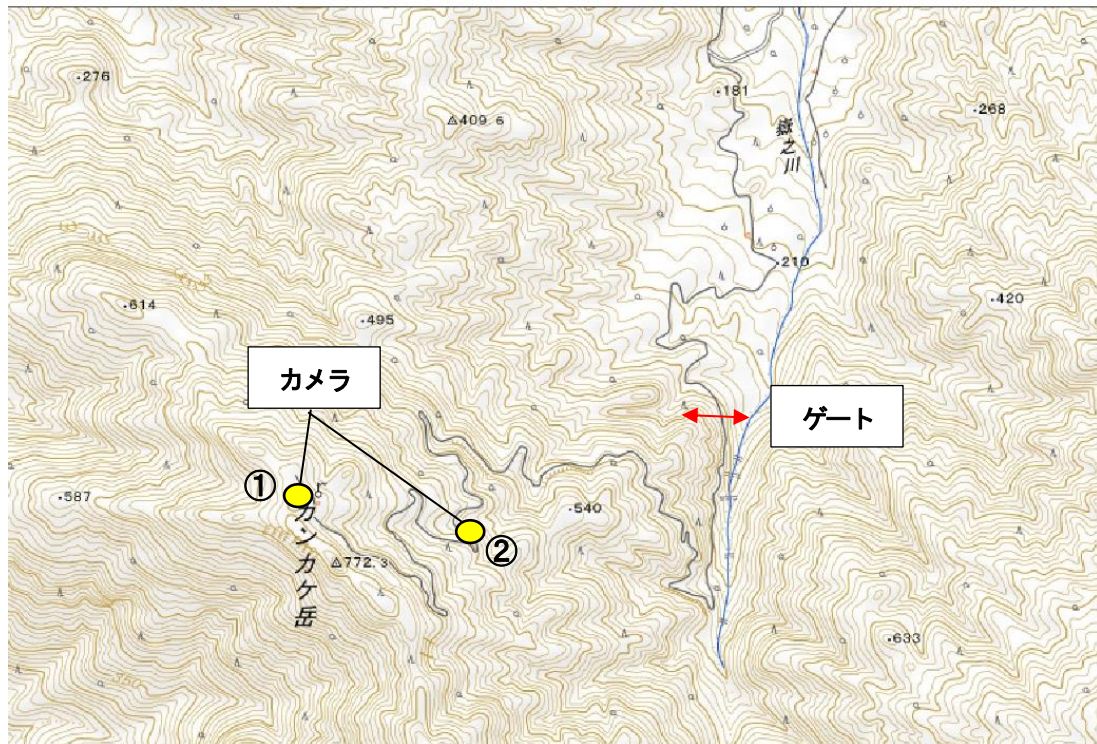


図2 カンカケ林道

- ・内閣府（沖縄総合事務局）が管理する林道で、終点には電波塔がある。
- ・糞塊密度は16 塊  $\text{km}^2$ で、島内で相対的に高い。（昨年度までは、林野庁の委託事業（くくり罠）を実施）
- ・屋久島北部地区での捕獲の実施。
- ・昨年度に湯泊林道で実施した車両を用いない「待ち伏せ型誘引狙撃」の実施を想定  
→高標高域や奥岳での捕獲、ピンポイントでの捕獲などを見据えた捕獲手法の構築
- ・給餌の手間を軽減するため、給餌開始時と捕獲直前時で給餌間隔を変える、自動給餌器の導入などを検討（昨年度の課題を踏まえた対応の実施）
  - ・誘引時と比較して捕獲日のヤクシカの出没頻度が少なく、テントで待機している人を警戒している可能性  
→誘引地点から射撃地点までの距離を一定距離（40m 以上）確保できる場所での捕獲
  - ・地点的誘導は達成できたが、時間的誘導（捕獲実施時間である9～13 時）を促すための工夫が必要。  
→餌量を減らし日中の誘引を促す、通信機能の付与した赤外線カメラを活用した出沒状況の把握などを検討。
- ・5 月末より1 か月間、試し誘引とカメラ調査を実施し、シカの生息状況や誘引状況を確認した。



カメラ①周辺



カメラ②周辺

#### 4. 令和6年度実施内容（案）

##### （1）実施体制

- ・関係機関※の協力の下、環境省（屋久島自然保護官事務所＋業務請負者）が事業主体として実施（図3）。

※関係機関：九州森林管理局（屋久島森林管理署、屋久島森林生態系保全センター含）、鹿児島県（自然保護課）、屋久島町（観光まちづくり課、産業振興課）、九州地方環境事務所（屋久島自然保護官事務所含）及び各機関の業務請負者

- ・実施計画作成段階から関係機関で協議し、各協力（評価・安全管理・諸手続き・周知等）を得る。
- ・岐阜大 鈴木教授及び森林総研関西支所 八代田研究員（両者ヤクシカ WG 委員）に捕獲と検討・評価に係る協力を得る。
- ・上屋久・屋久町の両猟友会有志に、企画立案、射手や観測手等の協力を得る。

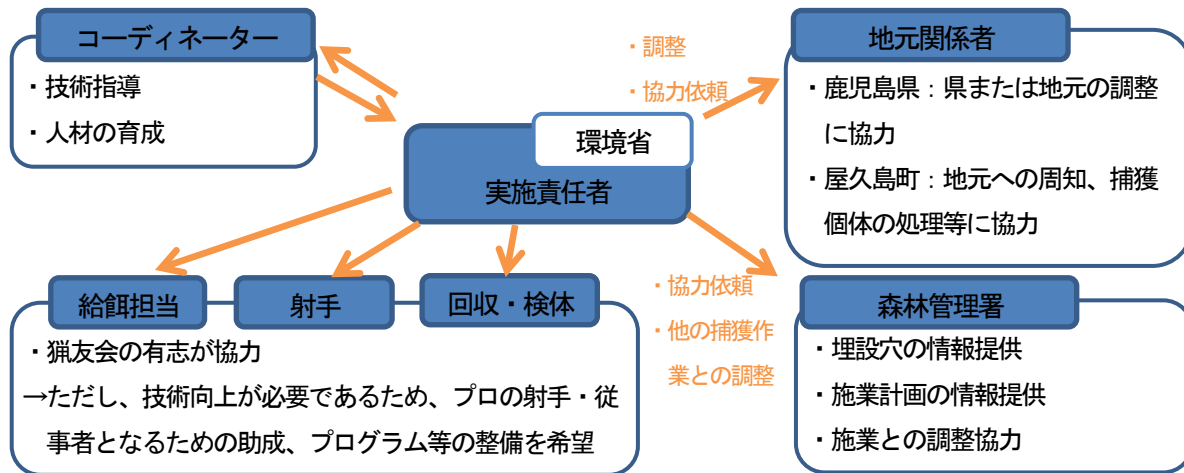


図3 平成28年度現地検討会で討議・合意した体制図

##### （2）給餌・捕獲（案）

- ①給餌：【時期】 10月頃～（捕獲前3週間前程度～捕獲後1週間程度）

※給餌開始時と捕獲直前時で給餌間隔を変える、自動給餌器の導入など、給餌の手間を軽減することを検討

- ②捕獲：【時期】 11～12月頃

【方法】 給餌にて誘引を行い、ライフル銃を用いて狙撃

【捕獲頭数】 最大頭数80頭程度（給餌地点数[3～7地点程度/路線]×最大3頭×回数）

※給餌地点数、実施回数による

【目標】 全滅率（＝全頭捕獲群れ数 / 射撃群れ数）を100%にする

【捕獲体制】

本部車両（統括者・連絡係）、徒歩班（記録者・観測手・射手・給餌者・終点ゲート管理者）、捕獲個体回収兼フリー車両、ゲート管理車両、外部連絡車両

##### （3）捕獲個体処理（案）

- ①カンカケ林道の埋設穴を利用して処理する。
- ②島内の処理場に搬送し適切に処理する。
- ③データ・サンプル採取を行う。

#### (4) 周知

①事前周知：住民・関係団体（屋久町猟友会、上屋久猟友会・屋久島観光協会など）

②実施直前・実施中

- i) 広報 町報掲載、防災無線などにより実施エリア、期間を周知
- ii) 現地 林道入口その他要所に看板を設置。当日は、要所に人員を配置

#### (5) 安全管理

①リスクの予測

給餌等の事前準備、捕獲、回収、安全管理監視などそれぞれの役割ごと作業毎にリスクを予測。

②リスク回避・予防策

想定されるリスクごとにリスク回避・予防策を検討して実施する。

③緊急事態への対応

緊急時連絡体制、異常時の対応ルールの整備。

#### (6) 評価

捕獲終了後、関係機関およびアドバイザーにより、実施体制、シカの反応、捕獲技術等にかかる成果と課題、次年度以降の改善点なども含め、SS 体制によるヤクシカ捕獲手法の適性、継続性、加えて、アニマルウェルフェアへの配慮度について、評価する。また、今年度の捕獲に対する評価は、昨年度同様に、教育されたシカを発生させないことを主眼に置き、全滅率（＝全頭捕獲群れ数 / 射撃群れ数）を用いる。